



最後の懸念はセキュリティ

一喜一憂と紆余曲折を重ねて、いよいよアイデアを取りまとめる段階へと突入した MAPPS 構想。技術的な課題、コストダウンの指針などが着々と整理される中で、ひとつだけ気掛かりなことがありました…。

I.B.MUSEUM の SaaS バージョンを開発することに加えて、学芸員の情報収集をサポートする Web サービスを併設し、なおかつ中小規模の館でも無理なく導入できる程度の料金設定を実現する。

収藏品管理システムと言うよりも、博物館業務の支援システム。もともと I.B.MUSEUM シリーズで描いてきたコンセプトを、学芸員サポートのための情報サービスをプラスすることでさらに視覚化する、新しいプロジェクト。私たちは、仮に「MAPPS」と名付けることにしました。

単なる「ASP によるデータ倉庫」ではない、本当の意味での博物館運営支援を。なかなか困難な作業になりそうでしたが、さっそく議論に取りかかりました。

着々と具体化に向かう MAPPS 構想

SaaS 版 I.B.MUSEUM の構想は、その後もさまざまな館にアドバイスをいただきましたが、概ね好評。すでに独自のシステムを構築している館からも「業界全体にとって非常に有意義」という励ましをいただいたりもしました。

それ以上に好評だったのが、学芸員サポートサービス構想。「今すぐに欲しい」と仰る学芸員も少なくなく、大きな手応えをつかむことができました。

社内の議論も順調に進み、前回、前々回とお送りしたような資料をブラッシュアップしては、また新たな議題を得る…という繰り返しで、徐々にカタチが見えてきました。

もちろん、課題も随時検証。日常業務をこなしながらのディスカッションなので一気に…というわけにはいきませんが、技術的にもコスト的にも壁が突破できそうな気配。

そして、導入費用面とともに恐らくは最大の難関となるであろう課題の克服に着手しました。

ただひとつ、払拭し切れない懸念材料とは

その難題とは、データの置き場所のこと。ASP/SaaS では、館が保有する情報を外部サーバに格納することになります。これまで、弊社でもサーバ管理を請け負った事例は少なくありませんが、その大半はインターネット公開用のもの。最初から外部に発信するためのデータであるため、大きな課題として認識されることはほとんどありません。

しかし、収藏品管理システムのデータをまるごと外部サーバで管理すると、セキュリティの問題が発生します。先日お送りした資料にもある通り、この 10 年ほどは行政側もシステムの合理化には積極的であるとは言え、友の会のメンバーや寄贈者などの個人情報も一括管理するとなると、やはり堅固なデータセンターが必要です。

そう言えば、技術畑出身ではない私は、データセンターを訪ねる機会がありませんでした。弊社担当から様子を聞いていたとは言え、これは自分の目で確かめる必要がありそう。そこで、一足早く業務提携契約を交わしていたインフォコム社に、見学を申し入れました。



結論を言えば、この時の視察が、MAPPS 事業を本格的に推進する上でのひとつの契機となりました。それは、システム開発現場からはなかなか伺い知れない、サーバ事業の底力を見る思いでした。

これなら、博物館の収藏品管理情報を、安心して任せられる。そう確信するに十分なデータ管理現場を目の当たりにして、構想は最終段階へと進みます。